産地情報ページ 2010

11月2週から本格化

和歌山 早生ミカン

9月1日時点の系統出荷量は3万1000トンで前年の11%減、前回裏年の一昨年並みを計画する。着果数が少ないことに加え、9月は気温が高く、適度な降雨があったため、玉伸びが良く、前年より大きめで生育してきている。ただ、着色は1週間ほど遅れており、出荷スタートもやや遅れ、11月8日の週からとなりそう。主力は「宮川早生」で、出荷ピークは11月下旬の見込み。

早生ミカンの出回りが11月から始まる。生育はやや遅れているため、増量は第2週からとなりそう。食味は酸高傾向だが、適度な降雨で玉肥大は平年並み。遅れている着色も10月下旬に入り進んでいることから、好スタートへの期待が高まる。

（主要5県が対象）

（JA和歌山県農）

愛媛

例年と比べると糖度、酸ともやや高め。寒暖差が小さかったため、着色は例年と比べて5日程度、遅れ気味だ。出荷は前年より2、3日遅い11月1日からの予定になっている。系統の出荷量は3万トンと前年比5%減を見込む。12月の最需要期のニーズに応えられるよう、計画出荷を心掛ける。

（JA全農えひめ）

佐賀

系統の出荷量は前年より10%少ない3500トンを見込む。春先の低温による開花遅れが影響し、生育は例年より1週間～10日遅れて、酸がやや高め。品質重視での販売方針を掲げており、生育を見ながらの販売となる。早くて11月4日の販売スタートになる。これは例年より1週間程度遅い。場合によっては11月8日に販売開始がずれ込むこともあるかもしれない。主な品種は「宮川早生」と「興津早生」となっている。

（JAグループ佐賀）

長崎

出荷は11月1日で、第2週から徐々に増える見込み。猛暑などの厳しい生育となったが、着果がいこともあり、玉肥平年並みのM級4割、L級3割と理想的な推移。早出しをせずを重視した出荷にする。系統出荷量は7000トンで前年比21%減を見込んでいる。前回裏年の一昨年に比べ8%減い。（JA全農ながさき）

熊本

系統出荷量は1万

日本コメ市場 2010年産新米の取引価格（10月1～15日）

（円／60kg）

産地銘柄名	10年産価格	09年産同月	増減額	09年産最終公表価格	増減額
宮城・ひとめぼれ	11,171	－	－	13,799	▲2,628
秋田・あきたこまち	11,595	13,683	▲2,088	13,435	▲1,840
福島(中通り)・コシヒカリ	11,825	13,428	▲1,603	14,365	▲2,540
栃木・コシヒカリ	11,734	13,355	▲1,621	13,474	▲1,740
茨城・コシヒカリ	11,801	13,458	▲1,657	13,874	▲2,073

※関東着基準の1等、包装代込み、税別
※最終公表価格は秋田が8月でそれ以外は7月
※▲はマイナス、－は比較できず

10月前半 コメ市場 需給緩み取引低調

米の卸売会社や集荷業者が会員となり、業者間で米を売買取引する日本コメ市場は26日までに、10月前半（1～15日）の取引結果をまとめた。10月から2010年産新米価格の公表になった。公表された5銘柄の価格は、09年産に比べ60キロで2600円から1600円安い価格で取引されている。

米の過剰感が強いため、同市場は「新米になっても取引は盛り上がらず、価格は下落傾向」と、低調な取引となっている。

同市場は、約200社が会員で、半月に60トン以上成約のあった産地銘柄を公表している。昨年11月から半月ごとの取引結果の発表を始めている。全体の取引数量は明らかにしていない。

今回発表した5銘柄を、昨年産最終公表価格と比べると、宮城「ひとめぼれ」が2600円下げの60キロ1万1171円となったほか、福島・中通り「コシヒカリ」は2500円下落するなど、すべての銘柄で大幅に値下がりした。

昨年10月後半（16～31日）の取引の価格と比べると、2000～1600円下げ。同市場は「通常は、古米より高い新米の価格が逆転して、安くなっている。09年産の持ち越し在庫と、10年産の過剰作付けにより、需給が緩んでいることが価格に反映されている」と話している。

茨城「コシ」300円下げ

全農10年産米相対

JA全農は26日までに、2010年産米の相対契約基準価格（25日現在）を公表した。茨城「コシヒカリ」が60キロ1万2700円と300円下げた。そのほかの銘柄については、据え置いた。価格は31日まで適用する。

茨城「コシヒカリ」が価格を改定するのは、当初価格（8月30日）から3回目。ほぼ2カ月で60キロ当たり1100円下げた。

栃木、千葉、福（通り）の「コシヒ の価格設定が1万0円になっている ど、他産地の動向 え、価格を設定し られる。

外食市場の業種別動向

	2009年	10年見込み	09年対比(%)
外食市場全体	32兆5602億円	32兆3542億円	99.4
イタリアン合計	5940億円	5970億円	100.5
イタリア料理店	3279億円	3242億円	98.9
イタリアファミリーレストラン	1341億円	1390億円	103.7
宅配ピザ	1295億円	1304億円	100.7
クイックパスタ店	25億円	34億円	136
すし店合計	1兆6284億円	1兆6276億円	100
すし店	1兆580億円	1兆500億円	99.2
回転ずし	4282億円	4358億円	101.8
テイクアウトずし	965億円	963億円	99.8
宅配ずし	457億円	455億円	99.6
焼き肉店合計	5614億円	5564億円	99.1
焼き肉料理店	4818億円	4774億円	99.1
焼き肉ファミリーレストラン	796億円	790億円	99.2
コーヒー店合計	1兆3247億円	1兆3072億円	98.7
喫茶店・コーヒー専門店	1兆161億円	9988億円	98.3
コーヒーショップ	2893億円	2896億円	100.1
多毛作型コーヒーショップ	193億円	188億円	97.4

10年民間予測 外食産業が苦戦 節約志向続き0.6%減

調査会社の富士経済は、外食産業の市場動向について調査結果をまとめた。2010年の市場規模は、前年比0・6%減の32兆3542億円になると予測した。景気低迷から消費者の節約志向が続き、客単価が下がるなど、全体として苦戦が続きそうだ。

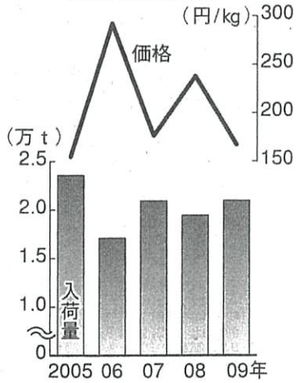
14分野130の外食市場を4～7月にかけて調べた。10年に市場が拡大するのは、割安感や手軽さから、ファストフード、テイクアウト（持ち帰り）、給食の3分野だけ。130市場のうちでは、市場規模が09年を上回ると予想されるのは50市場となった。売長率のトップは、価格型居酒屋」（成50%）。2位は、出続く「クイックパ店」（同37%）、3位ブームが起こって「たい焼き専門店22%）などとなった

業種別で見ると、の市場規模は前年全体の6割以上を「すし店」の減少に止めはかからないが価格を売りにした「すし」が、家族連れ

2010年の市場成長率トップ10（見込み）

順位	業態名	成長率(09年対比、%)
1位	均一価格型居酒屋	49.6
2位	クイックパスタ店	36.7
3位	たい焼き専門店	21.5
4位	とんかつ・かつ丼店	17.9
5位	サンドイッチ店	16.5
6位	立ち食い・セルフ式そば、うどん店	14.1
7位	有料老人ホーム給食	14
8位	宅配釜飯	10.8
9位	ホルモン料理店	9.5

入荷量と価格（11月、東京市場）



（第3種郵便物認可）

石垣牛 首都圏へ

月に6頭程度

JAおきなわ

銘柄売り込み

沖縄県のJAおきなわは、首都圏で地域認証銘柄牛「石垣牛」の販売に本腰を入れ始めた。食肉卸のミートコンパニオン（東京都立川市）と連携し、今月から埼玉県和光市にある食肉処理施設まで生体で運んで、と畜・出荷する仕組みを新たに確立した。同社への出荷は月間6頭程度を見込んでおり、大消費地・首都圏で市場評価をアップ、高値販売を期待している。JAは「消費動向を見極めながら徐々に頭数を増やし、知名度を上げたい」と意気込んでいる。

「石垣牛」は、同県八重山郡内で生まれ、肥育された牛で、飼料をJA石垣牛肥育部会で統一しているのが特徴。2008年に特許庁から地域団体商標を受けたこだわり牛だ。JAによると近年、もと牛価格の低迷を受けて子牛を自家保留し、肥育まで手掛ける一貫経営の農家が増え、肉用肥育は増頭傾向だという。これまで、観光客向けに地元で販売するケースがほとんどで、500頭分の消費が限界だった。

今年度は、700頭出荷する計画で、沖縄県内のほか首都圏に販路を広げる計画だ。現在、首都圏に販売網を持つ東京都内のスーパーが販売を決めたほか、「おきなわ和牛」を扱う鉄板焼き店などが関心を示している。

JA石垣牛肥育部会部会長の仲大盛吉幸さん(54)は「首都圏での販売は初めて。販路が広がれば、生産意欲も高まる」と、高値販売を期待。ミートコンパニオンの植村光一郎常務は「全国に銘柄牛は約250あるとされるが、新たなブランド創設の一方で、淘汰（とうた）も進んでいる。遠隔地だからこそ生産、流通、消費が一体となるアグフードチェーンを構築しなければならない」と強調する。

差別化前面に

同社は今月、埼玉県で開た「第4回おきなわ和牛展即売会」で初めて「石垣牛6頭を販売。枝肉価格は「きなわ和牛」と比べ1キロ当り300円高く取引されたこのうちの2頭を購入した肉卸のニイチク（東京都江区）は「全国の銘柄牛を取扱っているという宣伝にる。特色ある和牛を求める肉店や焼き肉店などのニーに応えられる」と話す。